

あま市民病院だより

★不定期連載 消化器コラム★

第2回 便潜血検査と大腸癌

現在、日本で広く行われている免疫法による便潜血検査では、毎年検診を行うことによって大腸癌の死亡が約60%も減少するといわれています。簡単、安価、身体に負担がないため健康診断では、便潜血検査を大腸癌検診として一般的に用いています。便潜血検査が陽性になった場合は、精密検査として大腸内視鏡検査を受けることになります。今までに大腸内視鏡検査を受けた方のなかには、注腸X線検査やCTコロノグラフィーなどの検査を経て、大腸内視鏡検査を受ける方もいらっしゃるかもしれませんが。大腸内視鏡検査は前処置に下剤や検査食など事前の準備が必要で、当日も約2リットルの腸管洗浄剤を服用した後、大腸内視鏡挿入時に腹部膨満や腹痛などに耐えなければならず、大変な検査であることは事実です。(個人差はあると思います)このような大変な検査を受けるのですが、便潜血検査陽性で大腸癌の検出率は1000分の1～1000分の2程度なので、検査後に異常なしですと言われた方も多いかと思います。



ただ、大腸癌の約70%が便潜血検査をきっかけに診断されていることと、早期癌で発見されると90%前後が治癒することなどの理由から、大腸内視鏡検査をお勧めしています。また、病理組織では管状腺腫といわれている良性の大腸ポリープが、将来的に癌化することが知られていて、大腸内視鏡で治療することができます。

今回は便潜血検査と大腸癌のお話しでした。日本の消化器内視鏡診断の精度は世界的に高水準で海外のメディカルツアーとしても利用される時代になってきましたが、やはり丁寧な検査や手技が基本だと思っています。

胃カメラと同様に苦痛を軽減するために鎮静剤など使用することも可能ですが、事前に鎮静剤については十分な説明を受けることをお勧めします。

あま市民病院 消化器・内視鏡センター長 いわた まさみ 岩田 正己

◇◆◆あま市民病院Facebookのご紹介◆◆◇

あま市民病院の活動やお知らせなどをFacebookでも発信しています。



<https://www.facebook.com/amahosp/>

公益社団法人
MED 地域医療振興協会

〒490-1111 あま市甚目寺畦田1番地
問合時間：午前8時30分～午後5時
(土・日曜、祝日を除く)

☎ 444-0050 FAX 444-0064

<https://www.amahosp.jp/>

